

2022(令和4)年度

甲南女子大学

教職課程年報

甲南女子大学 教職支援課

目 次

1. 2022(令和4)年度教職課程について

(1) 本学教職課程・保育士課程.....	3
-----------------------	---

2. 学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について	4
-------------------------	---

3-1. 各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

◇ 幼稚園教育実習 感想文 総合子ども学科 賀来 菜陽	6
◇ 幼稚園教育実習 感想文 総合子ども学科 清原 琉花	8
◇ 幼稚園教育実習 感想文 総合子ども学科 山平 侑奈	10
◇ 小学校教育実習 感想文 総合子ども学科 秋富 瑞歩.....	12
◇ 小学校教育実習 感想文 総合子ども学科 出羽 琴音.....	14
◇ 合格体験記 総合子ども学科 富永 詩乃.....	16
◇ 合格体験記 総合子ども学科 本荘 里菜.....	18
◇ 合格体験記 総合子ども学科 岡田 茉桜.....	19

3-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

◇ 中学校教育実習 感想文 日本語日本文化学科 朝日 桃香	20
◇ 中学校教育実習 感想文 日本語日本文化学科 農頭 芽衣	22
◇ 合格体験記 日本語日本文化学科 山口 美咲	24

3-3. 各種体験記（医療栄養学科-栄養教諭課程）

◇ 栄養教育実習 感想文 医療栄養学科 小林 瑠菜.....	27
◇ 栄養教育実習 感想文 医療栄養学科 西嶋 穂乃実.....	29

3-4. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

◇ 私の目指す養護教諭像：4年間の教職課程を振り返って 看護学科 鱈淵 咲.....	30
---	----

◇ 私が目指す養護教諭像：4年間の教職課程の学びから		
	看護学科 Y.Y	32
◇ 4年間の養護教諭過程での学びを振り返り：目指す養護教諭像		
	看護学科 齋藤 陽奈	34
◇ 目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己課題を考える		
	看護学科 津山 果凛	36
◇ 合格体験記	看護学科 Y.O.....	38
◇ 養護実習を終えて	看護学科 進藤 歩未.....	39

4. 教職支援課の概要

教職支援課の支援体制について.....	44
教職支援課の利用について.....	44

5. 教員の養成の状況についての情報

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること.....	45
-----------------------------------	----

1. 2022（令和4）年度教職課程について

(1) 本学教育課程・保育士課程

本学教職課程・保育士養成課程において、取得可能な教員免許状・資格は以下の通り。

<学部>

学部・研究科	学科・専攻	取得可能な免許状・資格
文学部	日本語日本文学学科	中学校教諭一種(国語)
		高等学校教諭一種(国語)
	英語文化学科	中学校教諭一種(英語)(※1)
		高等学校教諭一種(英語)(※1)
国際学部	国際英語学科	中学校教諭一種(英語)(※2)
		高等学校教諭一種(英語)(※2)
人間科学部	心理学科	中学校教諭一種(社会)(※3)
		高等学校教諭一種(公民)(※3)
	総合子ども学科	幼稚園教諭一種
		小学校教諭一種
	保育士	
看護リハビリテーション学部	看護学科	養護教諭一種
医療栄養学部	医療栄養学科	栄養教諭一種

※1 2019年度以前入学者対象。

※2 2020年度に学部学科を開設。

※3 2019年度生から廃止。

<大学院>

研究科	専攻・コース		取得可能な免許状
人文科学総合研究科	言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中学校教諭専修(国語)
			高等学校教諭専修(国語)
		英語英米文学コース	中学校教諭専修(英語)
			高等学校教諭専修(英語)
	心理・教育学専攻	人間教育学コース	幼稚園教諭専修
			小学校教諭専修

2. 学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座とは

- ・幼保実践講座とは、授業以外の日程で、教職支援課の先生が、実習や幼保関係の就職活動の際に役に立つ講座を提供している。
- ・2022年度は密を避けるため、Zoomも活用しながら対面でも実施した。

<学生の声>

— アンケートを一部抜粋 —

- ・ペープサートのことだけでなく、作る過程でハサミの切り方など細かい部分も新しく知ることが出来たので良かったです。
- ・先生方がとても優しくて受講しやすかったです。質問の機会も頻繁に作ってください、私たちの意見をたくさん取り入れていただいたことが嬉しかったです！次回もぜひ受講させていただきたいと思いました！

(2) 2022年度 幼保実践講座 実施報告

回	開講日	開講時間	ZOOM・対面	講座名	参加者数
第1回	5月24日(水)	12:15~12:55	ZOOM・対面	フェルトを使って名札を作ろう	14
	5月26日(木)				10
第2回	5月31日(水)	12:15~12:55	ZOOM・対面	ペープサート、スケッチブックシアターを作ってみよう	4
	6月2日(木)				4
第3回	6月7日(水)	12:15~12:55	ZOOM・対面	手袋シアターを作ってみよう	11
	6月9日(木)				3
第4回	6月14日(水)	12:15~12:55	ZOOM・対面	身近な物を使って遊ぼう	4
	6月16日(木)				1
後期個別対応	11月7日(月)	個別対応	対面	フェルトを使って名札を作ろう	4
	9日(水)				
	14日(月)		対面	エプロンシアターを作ろう	6
	21日(月)				
22日(月)					

<フェルトを使って名札を作ろう>

保育実習や幼稚園教育実習前にフェルトを使って名札づくりを行っている。
子どもたちに喜んでもらえるようにイメージしながら作成している。



<手袋シアターを作ってみよう>

手袋に色々な仕掛けを考えながら、手袋シアターを作成している。



<エプロンシアターを作ってみよう>

1つのエプロンに様々な仕掛けがあり、物語を想像しながら作成している。



3-1. 各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

幼稚園教育実習 感想文

人間科学部 総合子ども学科

賀来 菜陽

私は母園に幼稚園実習に行きました。実習園は、年少～年長のクラスが各学年2クラスずつあり、それに加え、2歳児クラスもある落ち着いた雰囲気幼稚園です。私は1か月という長い実習期間は初めてだったので、緊張と不安がありましたが、一日一日がとても早く、毎日楽しみながらたくさんの学びを得られ充実した実習になりました。

担当した学年は、年中クラスで1か月間同じクラスで実習を行いました。

この実習で特に印象に残った学びは4つです。1つ目は、全体に向けての声掛けの大切さです。子どもたち全体を見るとき、できていない子どもについて目がいてしまい声をかけてしまいがちですが、そうではなくできている子どもや頑張っている子どもの姿を全員に聞こえるように認め、褒めることで周りの子どもやできていない子どもが自分自身で気づけるようにするということです。2つ目は、個人差を理解し一人一人に合ったペースで頑張れるようにすることの大切さです。3つ目は、朝の時間に1日の活動内容を伝えることです。4つ目は、活動と活動の間に伝えることで、子どもたちが見通しをもち、期待をもって準備や行動ができるようにすることです。

9月は運動会の練習が主な活動でした。そのため、1日の活動内容がたくさん組み込まれているため、子どもたちが見通しと期待をもって行動ができるように、先生は活動内容をしっかり伝えていました。特に私が実習中、子どもたちの成長を感じられたことは、実習に入り子どもたちがおもちゃで遊びだす際に、先生が事前に片付けの時間を伝えていましたが、子どもたちは片付けの時間になっても先生に片付けの声掛けをしてもらわないと片付けができていませんでした。しかし、だんだんと先生が片付けの声掛けをしなくても、自分たちで時計を見て、声をかけあい、片付けを始められるようになりました。その姿はとても立派で、成長を感じられてとても嬉しい良い経験になりました。毎日の運動会の練習で疲れているなか、先生の周りに集まって話を聞いたり、椅子に座って待つときにだらけてしまう子どもや集中力がなくなってしまう子どもがいる中、その中でも静かに姿勢よく待っている子どもがいます。そんな時、先生は集中力が切れてしまっている子どもにしっかりしようねという声掛けをするのではなく、頑張っている子どもに対して「疲れているはずなのに静かに姿勢よく待っていてかっこいいね」という頑張りを認めて褒める言葉かけをします。褒められた子どもは嬉しく、また褒めてもらえるように頑張ろうと前向きな気持ちになり、さらにできていなかった子どももやらなければいけないことに自分自身で気づくことができました。自分も褒めてもらえるように頑張ろうと思えるので、全員にとってプラスな気持ちになれる素敵な言葉を学ぶことができました。このような言葉がけも頑張っている子どもだけに聞こえるように伝えるのではなく、全体に聞こえる声で伝えることで全員が気づくことができます。

私は部分実習での製作の時間、全体に説明した後、一人一人の席にまわり、声かけをしていて、それが保育者としていいことだと思っていました。しかし、それでは進むのが遅くなったり、呼べば先生が来てくれると子どもたちは思い、自由に先生を呼んだりし

て時間が何倍もかかってしまいました。全体の説明で聞いていなくても後で先生を呼んで聞けばいいと思ってしまい、話を聞かない子がでてきてしまうので、常に子どもたち全体の前に立ち、説明や声掛けを意識することが大切だと学ぶことができました。また、子ども一人一人に個人差があることは保育者として理解しておくことが大切で、その子どもにあったペースでできるようになっていくことが、子どもにとって良い成長だとこの実習で学ぶことができました。そのように個人差はあるけれど、子どもたちが戸惑うことなく活動できるようにするためには、保育者が朝に1日の活動内容を伝えることや、活動と活動の間に話をして期待をもって子どもたちが取り組めるようにすることも大事なことであったと学びました。

私はこの幼稚園実習で、毎日の読み聞かせの部分実習に加え、実習1週間たった日からは昼食の時間、終わりの会を担当し、朝の会も担当していました。それに、律動、歌唱指導、製作とゲームの部分実習もあり、どこの園よりも部分実習が多かった自信があるくらい毎日たくさんの指導案を書き、部分実習をしていました。最初は不安だけでしたが、毎日こなしていく事で自然と自信がつき、緊張もなくなり、最終的にはもっと子どもたちを楽しませたいという気持ちでいっぱいになって、休日に新しくペープサートやクイズを何種類も作ったり、手遊びをたくさん覚えたりしました。その成果が子どもたちにも伝わりすごく盛り上がり楽しんでくれて何度もしたいと言ってくれて、本当に嬉しかったです。

今回の実習で学んだことや反省点を今後の実習や保育の考え方に繋げていけるようにしたいと思いました。そして、子どもたちと過ごした1か月間の思い出や子どもたちの笑顔を一生忘れないと思います。これからも良い保育者になれるよう大学での勉強、実習に前向きに取り組んでいきたいです。

幼稚園教育実習 感想文

人間科学部 総合子ども学科

清原 琉花

私は幼稚園教育実習で5歳児クラスに入らせていただき、5歳児の発達や援助方法などたくさんのお話を学び、とても充実した実習になったと感じています。

私が実習を行った9月～10月は行事の多い時期であり、たくさんの方に参加させていただくことができました。そこで行事を進めるにあたって大切なことや運営方法などを学ぶことができ、とても貴重な経験をすることができました。まず、運動会の練習では発達段階に合わせたねらいのもと、子どもが楽しみながら行うことが出来るよう援助することや、運動会への期待を高められるような環境構成を行うことが大切であるということをお学びました。また、毎日の運動会練習を通して子どもの成長を見ることができました。作戦会議ではどうすれば勝つことができるのかを一生懸命考えている姿が見られたとともに、保育者は子どもの意見を認めながら関わる大切であるということを実感することができました。また自由遊びの時間に積極的に鬼ごっこなどをしたり、走ることが苦手な友達に教えたり、友達を練習に誘う姿が見られたりなど、友達と一緒に取り組む姿を見ることができました。このように運動会練習を通してクラスで一丸となって取り組もうとしている様子を見てひとつの行事を通してたくさんのお話を身につけているのだと実感しました。そして保育者として運動会を行うにあたって事前準備と情報共有の大切さを学ぶことができました。運動会当日だけでなく運動会までの保育者の動きなども見ることができ、とても良い経験になりました。次に芋掘り遠足や駅前買い物では、園外保育での注意点などを学ぶことができました。園内とは違った声掛けが必要になることや人数確認の重要性などに気づくことができました。またこのような援助をすることで子どもは安全に最後まで活動を楽しむことができるのだと実感しました。また、芋掘りでは一生懸命芋を掘り、たくさん取れたと喜んでる姿、重いと言いつつながらどのお芋料理が食べたいかを話している姿、駅前買い物では自分でお金を払い、こんなにたくさん買えた喜んでる姿、クラスのみんなに何を買ったのか嬉しそうに報告している姿、などを見ていろいろな経験をしている場面を見ることができたことに加えて喜びを共有することができてとても嬉しかったです。私はこの3つの行事を通して、行事の前は保育者として準備をすることがたくさんあり大変なこともあるが、子どもがひとつひとつの行事を思う存分に楽しんでいる姿や行事を通してたくさんのお話を身につけている姿を見て、行事は子どもにとって大きな成長の機会であり、とても良い経験になっているということを感じることができました。

そして今回の実習では部分実習と責任実習をさせていただき、たくさんの方の反省と深い学びができたと思います。実際に子どもの前に立つと緊張して思うように進められないことや保育を進めることの難しさを実感しました。朝の会や帰りの会、歌唱指導などでピアノを弾かせていただいたのですが、緊張で指がうまく動かず、声が小さくなるなど練習通りにはいかないことを実感し、体に染み付くくらいたくさん練習が必要になることと人前で弾くという経験をたくさんしておくことも対策になると感じました。また、ゲーム遊びでは反省することも多く、担任の先生や園長先生からたくさん助言をいただきました。私はゲームの内容を考えるうえで運動会の練習の中で作戦会議をしてい

る姿から友達と話し合い、協力するとともに自分の意見を伝えることができるよう作戦会議を活動の中に取り入れるなどして工夫しました。しかし作戦会議をした後に2回戦をしようとしたのですが、気持ちが切り替えられずなかなか2回戦を始めることができないう状況になってしまいました。そこで担任の先生から保育者が話し方に強弱をつけるなどし、メリハリをつけることで子どもは気持ちを切り替えることができ、よりよい活動になると助言していただきました。保育者の話し方ひとつで変わるということを学ぶことができました。また責任実習では「ボール運びリレー」をし、運ぶ道具をチームで考えて作るという活動をしました。実際に活動してみると私が思っていた以上に子どもたちが一生懸命取り組み、設定していた時間では足りず、道具の作成時間を伸ばすことになりました。園長先生からは予想外の出来事で戸惑いもあったと思うが良い判断ができたと言ってくれました。しかし、活動の終わりが良くなかったと反省しました。先生方から作った道具を発表したりして子どもが満足して終わることができるようにすると良かったと言ってくれ、これからは導入だけでなく活動の終わりにも十分配慮しようと思いました。責任実習の中で特に印象に残っていることは、チームで道具をつくる際に、ひとつのチームは全員で1つのものを作りながらどのようにすれば運びやすいかなどを考えていたのですが、もうひとつのチームは各々が考えた道具の中でどれが良いかを相談するという決め方をしていました。私はこの様子を見てチームによって道具の決め方に違いがあり私が思っていた以上に素晴らしいものが完成し、子どもの発想力の豊かさに気づくことができました。

私は今回の実習を通して保育を進めることの難しさとやりがいを実感することができました。思うようにいかなかったことや失敗したこともあったのですが、子どもたちとたくさん遊びいろいろな感情を共有することができ、机上では経験できないことを経験することができました。また、子どもたちの成長を間近で見たり感じたりすることができ、嬉しかったです。今回経験したことや感じたことを今後に活かしていきたいと思いました。

幼稚園教育実習 感想文

人間科学部 総合子ども学科

山平 侑奈

私は、地元の幼稚園型認定こども園に幼稚園実習に行きました。実習園は、年少から年長まで各学年 100 名ほどの子どもが通い、各クラスに担任教諭のほか非正規雇用の担当教員が付く 2 人担任制でした。地元ではありながら、通った経験はなく中学校の授業で交流があった園で、保育者や保護者の様子等も実習参加まではよく知らず、張り詰めた気持ちで実習に臨みました。

実習園では、子どもに対しても保育者に対しても「自分で考えてやってみること」を大切にしていました。そのため、保育中も指示するような言葉かけは少なく、子どもが自分で考えられるように尋ねたり、子どもの言葉を拾って話したりしていました。特に、自信を持って選択し行動できるように些細なことでも気づいたことがあれば、周囲の子どもにも伝わるような認め方をしているのが素敵な保育だと感じました。私自身、幼少期から自信が持てず周囲の反応を伺って行動していたこともあり、目標とする保育が、子どもが自信を持って過ごせる保育、自分のことを好きだと思えるような保育でした。そのため、今回の実習園の保育者の子どもに対する接し方がとても勉強になり、自分がどのような保育をしたいのか具体的に考えるきっかけとなりました。また、先述したように保育者に対しても「自分で考えてやってみること」を重要視していたためか、実習生の私に対しても「一人一人の子どもの話を丁寧に聞いていたのが良かった。」などと、その日の実習で良かったことをたくさん教えていただきました。そのおかげで、周囲の先生方の反応を伺うのではなく、その時目の前にいる子どもに必要なと思った援助を積極的に実践することが出来ました。

保育者としての在り方についても学びの深い実習でした。1 か月間 4 歳児クラスの担当で、運動会前だったため戸外で体を動かす遊びや友達と協力するゲームが多く保育に取り入れられていました。その中で特に印象に残ったのが、とある日の運動会ごっこ終了後の出来事です。その日は水分補給後に年長児の運動会ごっこの様子を見学する予定になっていましたが多くの子どもが普段の通り保育室に帰ってしまいました。しかし、担当の保育者は「あの子たちなら大丈夫。自分たちで考えてどんなふう動くのか楽しみ。」と仰って予定通り年長児の見学を続けました。また、子どもが様子を見に来た時にも「見たいなと思ったから見てから帰るね。」とだけ伝え、一緒に見るように指示をしたりはしませんでした。その後、保育者と共に保育室に戻ると、子どもは全員で保育者を驚かすお化け屋敷ごっこをしていました。保育者は「自分で考えてみんなでこんなに遊べたんだね、」と讚えていました。実習後に聞いた話では、子どものことを信じているから、自分たちで考えて動いたことに決して怒らないと決めて保育室に戻ったそうです。この出来事から、保育者は子どもの安全を確保するために常に状況を把握して見守っているべきだという考え方が覆されました。普段から、子どもの様子をよく知っていて、子どもも保育者を信頼し保育者も子どもを信頼している関係が築けていると、子どもの判断を待つことが出来るのだと実感しました。また、子どもに判断を委ねたのならどのような結果になったとしても怒らないという覚悟も必要であるとわかりました。

今回の実習で、はじめて実際の子どもの姿から指導案を作成して保育を実践し、その

大変さと子どもが楽しんでいる様子のうれしさを感じました。指導案作成は簡単ではなかったですが、保育者の方々の激励と子どもの姿のおかげで最後まで取り組むことが出来ました。目の前の子どもに必要なことを考えて、周囲の目を気にすることなく挑戦できたことが保育者としてだけでなく一人の人として成長できたと思います。自分の保育観や理想の保育者像について考えられる実り多い実習の機会を与えてくださった、幼稚園の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

約一か月の教育実習は、一日一日が濃く、成功や失敗を繰り返しながら試行錯誤する毎日でした。授業、休み時間、掃除、給食など様々な活動の中で、様々な学年の子どもたちと関わることで、子どもたちへの接し方は簡単なようで難しいことを実感しました。

私が入らせていただいたのは五年生でした。五年生は、六年生を支える「サブリーダー」を目標に掲げて過ごしていました。また、教育実習初日、初めて学級に入ったとき、羞恥心が芽生え、周りの目を気にする子どもたちが多いという印象をもちました。しかし、思春期に入りかけたこの時期だからこそ、友達、教師、家族との関わりが大切だと思い、授業では友達との協働学習を取り入れ、休み時間は学級全員、時には違う学年の子どもたちとも遊び、積極的に他者と関わる時間を作りました。

授業において、「誰一人取り残されることのない全員参加型の授業」を自分の中のテーマとし、これを意識して授業を行いました。日々子どもたちと関わる中で、「子どもたちが興味関心をもち、伸び伸びと学習できる授業をしたい」と思い、担任の先生に相談して、様々な教材を作りました。算数の「偶数と奇数」の単元では、一人一枚メダルを作り、道徳の授業では一人一冊の冊子を作りました。教材作りは大変ですが、子どもたちの反応をイメージしながら作るのとはとても楽しかったです。何より、やりがいを感じることができました。

学級の中で1人気になる子どもがいました。その子は、自己肯定感が低く、周りに強く当たってしまうため、友達からも怖がられている存在でした。そんなとき、道徳の授業で「自分らしさ」を考える授業をさせていただきました。友達から自分のいいところを書いてもらい、読んでもらうという活動の中で、その子は涙を流しました。そして、「自分のことを友達がこんな風に思ってくれていて嬉しかった」と私に伝えてくれました。その子はいつも手を挙げて発言してくれたり、「先生の給食置いておきますね」と気の利いた行動をとってくれたり、私の方がその子に助けてもらうことばかりでした。自分に自信がないからこそ、素直になれず、自分の感情とは裏返しの言動をとってしまうということに気づき、子どもの言動には必ず何かしらの理由や背景があるのだと学びました。また、最終日、手紙に「先生のおかげで友達と仲良くするきっかけができました」と書いてくれて、私自身をより教師になりたいと強く思わせてくれました。その子との出会いが、私をより一層成長させてくれました。そして、子どもにもなかなか吐き出せない真の気持ちがあるのだということにも気づきました。そして、教師が子ども一人一人のいいところを言葉で伝えることの大切さも学びました。子ども同士の人間関係の中で作られたその子に対する悪い印象やイメージ、偏見は教師が好印象に変えてあげること、私はこの教育実習の中でこれをとっても強く実感しました。

私は、子どもたち、先生方、たくさんの恵まれた環境の中で約一か月学ばせていただき、教師の良さを改めて実感することができました。私の思いを真剣に聞き、実行させてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。お忙しいにも関わらず、私のことを気にかけてくださり、時間を作ってください、私一人では決してこのような経験をすることはできませんでした。時間内に授業が収まらなかったとき、「子どもたちがも

っとしたい！と思った証拠。子どもの意欲を引き出すことができた証拠」と言ってく
さったこの一言にとっても背中を押してもらいました。実習前は不安と焦りでいっぱい
でしたが、今ではこの一か月の実習で私自身とても成長できたと感じています。私が育っ
てきた地元で実習ができ、懐かしい思いもある反面、教壇に立つ側として戻ってきたこ
とがとても感慨深い気持ちでした。大好きな地元でたくさんの学びを得られたことに感
謝し、次は私がこの恩を返したいと思います。そして、この実習でのたくさんの学びと
経験を糧に、来年、また教壇に戻ってこられるように頑張りたいと思います。

小学校教育実習 感想文

人間科学部 総合子ども学科
出羽 琴音

小学校教育実習は、自分の本当にやりたいことを見つけることができる時間でした。そして、この仕事に就きたいと強く感じることができました。

教育実習の中で私が一番初めに行ったことは、学校の雰囲気や児童たちの様子をよく観察することです。これから、一か月お世話になる場所に自分を知ることは不可欠だと思いました。人間関係や児童の性格をよく観察し、その情報をもとに授業作りや、児童と関わっていきました。

私は、一年生のクラスで基本実習をさせて頂きました。その中で一番感じたことは、私たちの「当たり前」と言われているものが、児童にとって「当たり前ではない」ということです。担当教員の先生は、椅子の座り方から、鉛筆の持ち方、発表の仕方などの授業で必要なことや、挨拶の仕方、列の並び方などの学校生活に必要なことをすべて一つ一つ丁寧に説明されていました。私たちが今当たり前に行っていることは、小学生の時にこのようにして教えられたのだなと感じました。そして、教師というものは教科内容を教えるだけでなく、学校生活の中で必要になるスキルや、今後の社会で必要になる力をしっかりと教えていけるようにならないといけないということを学びました。

授業に関しては、私はありがたいことに多くの授業をさせてもらうことができました。授業作りの中で一番気を付けていたことは、児童の考えをしっかりと取り入れていくということです。児童の意見や考えをもとに授業を作っていくということは、児童がどのような考え方や発言をするのかを予想して考えていく必要があります。予想する際にも、児童を観察していることがとても役に立ちました。「この子たちは、このような傾向があるからこのように答えるだろうな」と考えることで、児童中心とした授業を作ることができました。また、このような授業を作ることによって児童が生き生きと発言してくれました。しかし、児童の発言を取り入れるあまり、本来の流れからはずれてしまうという失敗もありました。担当教員の先生からは、「児童たちの発言が授業をつないでくれます。しかし、発言の交通整理をどのようにするかで授業は変わってきます。なので、交通整理が上手になると授業をうまく進めることができますよ。」と言われました。実際に見学させていただいたある先生の授業では、児童の発言は多く取り入れても授業はだらけることなくスムーズに進んでおり、児童は自分の意見をしっかりと言いながら、授業を楽しむことができていました。発言の交通整理、メリハリがとても大切だということを学ぶことができました。

今回の教育実習では、本当に多くのことを学ぶことができました。実習全体を通して、児童に「つけさせたい力」は何かということを考えながら行動していくということが求められているなと感じました。どういう意図をもって、行動・授業をするのかということを常に考えながら行動していくことが私の今後の大きな目標になると感じています。このような目標を立てることができる実習を行えたのは、実習校で様々な方からのサポートがあったからです。最後に「笑顔で子どもたちに関わる姿は、もう十分に先生といえる姿でしたよ」と言ってもらえた時には、本当に頑張ってたよ良かったなと感じました。実習中にうまくいかないことや、やらないといけないことが多くあり、行き詰まってい

るときに悩みを聞いていただくなど、本当に気にかけてくださったことは感謝にたえません。このような方たちと一緒に仕事をしたいと強く思いましたし、今後の糧にして頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

合格体験記

人間科学部 総合子ども学科
富永 詩乃

私は、この春4月から大阪府茨木市の私立幼稚園に就職します。これから、この就職園に決まるまでの経緯や採用試験などの体験談を述べていきたいと思います。

私は、子どもの頃から“保育士になりたい”と思ってこれまで来て、自分が幼稚園を卒園したため、憧れのイメージは自分の育った園の先生でした。

そして、保育園のしくみや様子は学校で学ぶ程度にしか知識がなく、保育園とは実際どんなものか不安になりつつはじめての保育実習を経験しました。しかし、保育実習を終えると、自分の中に幼稚園という概念しかなかった私が、幅広く乳児も幼児も成長のサポートをすることが出来る良さを感じ“保育園”で働くという選択肢が増えました。

2年生で経験した保育実習で自ら就職先を広げてしまったため、就職活動は、よく言えば幅広く・・・ですが実際はこの先自分を悩ますことに繋がりました。

3年生では母園の幼稚園実習を経験しました。その時に、実習の中で「こういうことが出来る先生ステキだな」「もっと先生方の保育学びたいな」という気持ちが生まれ、園長先生に学生アルバイトは雇っていないか尋ねました。当時は、幼稚園で学生のアルバイトは雇ったことがないと断られましたが、その年の2月に園長先生からお電話頂き、初めて学生アルバイトを雇うことを承諾いただき、3月から週1・2回アルバイトとして働き始めました。

そのうちに4年生になり、4月にほいコレ主催就職フェアへ初めて行き、北摂地域の別の就職フェアにも参加しました。正直何を聞いたらいいか、どの園に聞きに行ったらいいかも分からなかったので、茨木市でお勧めの園をコンシェルジュの方に聞いてブースに案内してもらいました。特に大規模のフェアはどの園に行きたいか目星がっていない人は圧倒されたまま時間が過ぎていくので、とりあえず自分の住んでいる地域の園のブースに行き、コンシェルジュの方等がいればお勧めを聞いて、説明を聞く第一歩のサポートをしてもらおう方が良いなと思いました。

そこで、私は説明を聞くだけでは分からないのでとにかく園見学をお願いし、園の法人でツアーしてくれるところもあったため計8園の園見学に行きました。小規模園・大規模園、モンテッソーリ教育や一斉保育をしない園など様々な特色があり、どの園にも良いところがたくさんあって「ここ！」と決めきることが出来ませんでした。

私は、フェアや園見学に行った際、働いている先生に「先生がこの園に決めた理由や先生的におすすめのポイントを伺いたいです」と同じ質問をしていました。すると、どの園でも必ず「最後は直観です！」と言っていて、他の園を見られる際も園見学しながら、その場で保育してそうかイメージしてみるといいよと教えてくださいました。

そのことを考えて何園も見えていくと、「すごくいい園だけどたぶん自分がやっていそうな保育ではないかな」とか、次第に方向性が見えてきて、学校ではゼミの先生に園見学した時の感想を聞いてもらったりして客観的なご意見を頂いたり相談に乗って頂きました。そこで、“自分の憧れや尊敬する存在のある園”が自分にとって一番したい保育ができるのではないかなと思い、3年生の実習とアルバイトでお世話になった母園を就職希望することにしました。

やっと就職のスタート地点に立った私は、4年生最後の保育実習も控えていて気持ちも不安定な中、採用試験に向けて取り組みました。採用試験は筆記・面接・簡単な運動・リズム・お話でした。ピアノの曲は何でも可だったので、1カ月で仕上がる程度の簡単で聴き映えのする曲を選びました。筆記は特に勉強する必要ないと言われましたが、幼稚園教育要領と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を読み返していました。迎えた試験当日は、筆記試験から始まりいきなり“10の姿で知っていることをなるべく書いてください”とあり、読み返していたものの緊張もあって3つぐらいを書いて大まかな説明しか書けず、もっと勉強しておけばよかったと思いました。筆記の途中で面接に呼ばれ、ピアノを弾き、用意されたなわとびを跳んだりスキップやバックスキップをしたりした後、カスタネットで即興リズム付け、パペットで「お芋ほりに行く前日の子ども達にお話しをする」という題でお話、質疑応答の流れでした。質問内容は、志望動機やこの園の印象、この園以外の実習で学んだこと等定番の質問の他に“幼稚園教育要領の中で自分が自信のある事”を問われた時はうまく答えることが出来なかったのもっと教育要領を読んでおけばよかったと思いました。しかし、この園が良いと思ったことと自分のアピールポイントや保育者像はどう聞かれてもぶれないようにまとめていたので、同じようなことを聞かれても「さっき話したことと同じような事にはなってしまいますが」と笑顔で前置きを付けて本心で話すことが出来たので、その点を評価いただきました。また、「何か質問はありますか」と聞かれた際に、「私は貴園で働けるようになったら〇〇のような保育者になりたいと思っていますのですが、園長先生が思う学生の間にしておいた方がよいことやこの園に入るために準備しておくべきこと等ありますか」と質問しました。この質問は、後日園長先生からもお褒め頂いて、この園で働きたいことがよく伝わったと評価いただいたので、ぜひ質問が思い浮かばなければ皆さんにも使っていただければと思います。

最後に、これから就職活動をされる皆さんは、どの園が良いのか分からなくなったり、採用試験に向けて自分と向き合ったりしながら、様々なプレッシャーに立ち向かっていかなければならない時が来ると思います。そんな時こそ周りを頼って、たくさん悩みながら自分が納得のいく道を選んでください。それがきっとこれからの自信や原動力に繋がります。皆さんが素敵な園に出会えますように。少しでも私の経験が皆さんの参考になれば幸いです。

合格体験記

人間科学部 総合子ども学科
本庄 里菜

家庭の事情により他の受験者と明らかに勉強時間が少なかった私ですが、たくさんの方の支えと大学生活での経験から、兵庫県教員採用試験に無事合格することができました。

多くの方に支えられた試験勉強でしたが、中でも大学の先生方には本当にお世話になりました。

面接や模擬授業、実技の練習では、授業だけでなく自主勉強会や自治体別に ZOOM を使った練習など、機会あるごとに様々な視点からアドバイスをいただくことができました。また、個人的な悩みまで相談に乗ってくださったり、話を聞いて下さったりしたことで、限られた時間を集中して試験勉強に費やせたと感じています。本当にありがとうございました。

大学生活では、主に3つのことが教員採用試験に活かしたと思います。

一つ目は、大学1回生の頃からアルバイトで集団塾の講師をしてきたことです。そこでの子どもたちとの関わりから、子どもたちの前で堂々と話す力を身につけることができました。模擬授業の際には子どもたちを想像し、いつも通り、楽しむ授業を展開できたと思います。

二つ目は、大学1回生の頃から小学生とキャンプに行くボランティアをしてきたことです。自然の中で子どもたちと生活することで、子どもが「生きる力」を身につけることの大切さを実感しました。これは私が理想とする学級像につながりました。教員になったら、わからないことを「わからない」と言える、周りに SOS を出せる子どもを育てる学級を目指していきます。これらの、学校でもなく、保護者とも離れた子どもたちと関わる機会を得られたのは貴重な体験だったと改めて感じます。

三つ目は、大学2回生の頃から小学校や中学校にスクールサポーターとして関わってきたことです。子どもたちから学ぶことはもちろんですが、小学校や中学校の先生方と話せたことが私にとって大きな成果でした。尊敬する先生方と話すことで、現場の情報をたくさん知ることができ、また目上の方との会話に慣れることができました。また、小学校の先生方と一緒に集団討論や面接、模擬授業の練習ができたことも嬉しかったです。先生方のおかげで、面接では職員室で話しているかのような雰囲気です話すことができました。

教員採用試験を振り返ると、本当にたくさんの方に支えられ、充実した数か月間でした。残りの期間でしっかりと準備をし、大学で得た学びを春から子どもたちに還元していきます。

お世話になった先生方、本当にありがとうございました。

合格体験記

人間科学部 総合子ども学科
岡田 茉桜

私は、この春から大阪市の小学校で教員として働きます。教員採用試験のために奮闘した日々は決して楽ではなく、とても大変な道のりでした。ここまで頑張ることができたのは、家族・同じ夢を持つ仲間・友人・大学の先生方など多くの方々の支えがあったからだと強く感じています。以下では、主に教員採用試験について自身が経験した内容をご紹介します。

私は3年次の教育実習が終わってから、試験対策を始めました。まず、東京アカデミーの参考書や問題集、受験自治体の過去問題集を購入し、勉強を進めていきました。その中で、苦手な単元もたくさんありましたが、その部分は高校の問題集を購入し一から勉強する中で克服していきました。また、一人で勉強するのではなく、友人と一緒に勉強するようにしました。このことにより、お互いが分からない問題があったときに教え合いができ、その場で解決することができました。勉強していく中でしんどくなったり、心が折れそうになったりする時もありましたが、「自分には同じ夢を持つ仲間がいて、みんなも頑張っているから自分も頑張ろう!」と、仲間の存在がとても大きな支えになりました。

大学受験の時に面接で失敗をしてしまったとても苦い経験があり、面接試験に対して苦手意識を持っていました。2月から始まった大学での勉強会でも、質問されたことに対して上手く答えることができず不安や焦る気持ちでいっぱいでした。しかし、大学の先生方や東京アカデミーの先生方、友人と一緒に何度も何度も練習する中で、自分の思いを相手にしっかりと伝えることができるようになり、大きな自信になりました。面接は練習すればするほど絶対に上手くなり、自信に繋がると思います。学習会のみでなく、忙しい中でもたくさん練習に付き合っただき、多くのアドバイスや励ましの言葉をくださった先生方や友人には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから、教員採用試験を受けようと考えている皆さんはぜひ自身がどんな教員になりたいのかということを思い描きながら夢に向かって全力で頑張ってください。時には、しんどい事や辛い事もあると思います。そんな時には家族・友人・先生方などの自分の周りにいる人たちがきっと支えてくれます。私自身、周囲に支えられているという安心感や頼もしさを強く感じました。自身の夢に向かって、周りの人たちと支え合いながら、感謝の気持ちを忘れず突き進んでいってください。

最後になりましたが、私を支えてくれた家族・友人・先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この春から教員として働くにあたり、上手くできるのかという不安もありますが、自身の思い描く素敵な小学校教員になれるよう日々頑張っていきたいと思えます。

この体験記が少しでも皆さんの参考になればと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

3-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

中学校教育実習 感想文

文学部 日本語日本文化学科

朝日 桃香

五月下旬～六月中旬にかけて、母校の中学校で教育実習を行いました。事前に大学の先生や先輩方からアドバイスを受けることができ、実習前に実習で行う授業や学級通信、自己紹介などある程度作って持っていくことができました。

しかし、毎日の授業作りには1番苦労しました。大学では1つの模擬授業をやるのに1週間以上は猶予があり、時間をかけて準備することができましたが、現場ではそこまで時間をかけることはできません。やっと出来上がったと思っても、実際にやってみると改善点も多く、2クラスほどやってなんとか形になってきたと思ったら次の日はまた新しい授業をしなければなりません。事前に作っていった授業も、実際にやってみると現場の子供たちにはレベルが合わず、結局大幅に内容を変えることとなってしまいました。毎日21時過ぎまで学校に残って授業作りや指導案作りに死力を注ぎました。毎日遅くまで付き合ってくれた指導教員には頭が上がりません。

それでも頑張れたのは、全てではないものの、自分の努力や工夫が生徒の成長に反映されるということ、そしてそれがいかに嬉しいか、実感することができたからだと思います。1番実感できたのは実習のまとめとして行った研究授業でした。私が担当したのは1年生の国語科で、その授業では説明文のまとめとして“文章を書く”授業を行いました。書く活動は、他の読む、話す活動に比べて難しく、特に国語が苦手な生徒にはハードルの高いものになってしまうのが難点でした。研究授業をやる予定のクラスにも文章を書くのが苦手な子は数名いました。

最初にやったクラスでは最後までワークシートを埋めることができたのはクラスの半数程度でした。これではいけない、と思い、どうしたら文章を書くことが苦手な生徒でも1つの文章を書ききることができるのか、試行錯誤しました。研究授業の前日は、日付が変わる少し前まで準備に追われました。

そして迎えた本番、研究授業を行ったクラスでは、出席していた全員がワークシートをほぼ最後まで埋めてくれたのです。その様子を見たとき、私は本当にやってよかったと思いました。それから、これをきっかけに少しでも彼らの苦手意識を減らしていくことができればよいなど更なる彼らの成長を願う気持ちが芽生えました。

教育実習では、授業や生徒指導をやってみて経験を積むほかにも、学校現場の様子や他の先生の指導の様子を観察させて頂くことでも大きな学びを得ることができました。

私が実習をした学校では、田舎で規模がそこまで大きくないこともあり、学校全体で生徒を見守る体制がしっかりできていました。どんな小さな出来事でも学年や学校全体で情報共有し、指導に当たっていく姿は印象的でした。

また、実習中に、1日研修センターのようなところでアクティビティを行う課外活動に同行させて頂く機会がありました。その中のイベントで山の中を歩くウォークラリーがあり、気温も高く、生徒たちには過酷で山の中で体調を崩してしまう生徒も数名いました。班別の行動だったので、生徒がいる場所はバラバラで、山中ということもあり、

体調不良の生徒を救出に行くのは困難な状況でしたが、その際、同じ研修センターで時間をずらして同じ活動をしていた他の学校の先生方が、実習中の学校の生徒に付き添い、助けてくださったことがありました。

自身の学校の生徒でなくても、熱心に他の学校の生徒たちを支援してくださるその先生の姿にはとても胸を打たれた記憶があります。

他にも、実習の中ではたくさんの素晴らしい先生方の姿を間近で見せていただき、毎日多くの学びがありました。

毎日寝る暇もないほど忙しく、体力的にも精神的にも大変でしたが、実習最終日には、このまま実習が終わってしまうのが寂しく感じるほどでした。

生徒たちには「このままうちの中学の先生になってよ」「先生になったら帰ってきてね」と言われ、うれしかったのと同時に、別れが惜しく感じました。

こうして振り返ると、教育実習の3週間はとても充実していたと思います。きっと教員になってからもこの3週間の経験は忘れないでしょう。

私は4月から神戸市の教員として教壇に立つこととなります。自治体が違うので実習をした学校に赴任することは叶いませんが、新たな地で、実習で得た学びや経験を少しでも多く活かしながら、生徒を導いていきたいと思います。

中学校教育実習 感想文

文学部 日本語日本文化学科
農頭 芽衣

教育実習で過ごした3週間で、私の人生にとってかけがえのない、濃いものになるとは思いもしませんでした。振り返ってみると、毎日同じ日はなく、予想ができないドラマのような日々になりました。

私は、実習校で1年間サポーターをしていたこともあり、教育実習以前から指導教員と交流があったため、関係は良好でした。そのおかげで、事前に教材を把握し、授業案の作成を行うことができました。誰よりも早い事前準備を行っていたので、「なんとなくいける」「なんとかなるだろう」と根拠のない自信に満ちていました。その軽い気持ちを持ったまま、実習当日を迎えていきます。

案の定、実習初日から壁にぶつかり、私の自信はどん底に落ちることになりました。実習初日は放課後学習会があり、生徒6人が参加していました。私は、指導教員の補佐として参加していましたが、急遽先生の会議が入ったことにより、私一人で担当することになりました。6人だから余裕だろうと軽く考えていましたが、驚くほど全く上手くいきませんでした。生徒の集中は切れ、話を聞いている生徒はおらず、勝手に帰ってしまう生徒も出てきました。この時、「たった6人の相手もできない私に、教師は向いていないのではないか」とひどく落ち込み、この瞬間、完全に心が折れました。

また、初回の授業でも課題ばかりでした。技術的なことだけでなく、授業の中で「どのような力を生徒につけさせたいか」「どのような生徒を育てたいか」等の、明確な目的や理想像を描けていなかったのです。「教師が曖昧な目標しか掲げていない状況で、生徒が成長するわけない」と指摘され、なんとなく授業を行っていることを突きつけられました。

指導教員に憧れを抱いていた私は、授業での話し方や授業の進め方、話の聞き方など、なにもかも真似をして必死に指導教員になろうとしました。ですが、授業中の生徒の反応はイマイチで、自分でもしっくりきておらず、モヤモヤした日々を過ごしていました。悩んでいた時、指導教員から「私には私の得意なことがあるし、あなたにはあなたの得意なことがある。私はあなたにはなれないし、あなたは私にはなれない。だから、あなたらしさを忘れず大切にしてほしい」と声をかけていただきました。そこで私は、なりきることに必死のあまり、目の前の生徒を見ておらず、自分らしさを忘れていることに気づかされました。そこから、誰かになりきることはやめ、自分らしさを出して正面からぶつかることにしました。すると不思議なことに、生徒の反応もよくなり、「先生の授業で国語が好きになりました」という言葉までもらえたのです。

今回の教育実習を通して、大きく2つのことを学びました。1つ目は、自分らしさを大切にすることです。まずは、自分が授業を楽しみ、生徒のための授業をすることでより良い効果が得られると気づくことができました。自分もワクワクし、生徒もワクワクできるような授業作りを心がけることが一番大切であることに気がついたので、これからの授業作りでは、目の前の子どもたちを見ながら、一緒に作り上げていきたいと思いま

す。

2つ目は、授業や学校生活の中で、考えさせる力を育成することの重要性です。これからの社会は、正解のない問いばかりが溢れる世の中です。そのため、自分で考えて判断し、行動できる力、そして、困ったときに誰かに相談できる力が必要となってきます。実習を通して、日々の生活から考えさせる声かけや発問を行い、考える力・判断する力を育てていかなければならないと強く感じました。常に生徒に対して、成長できるきっかけを与え続けられる教員になりたいと思います。

教育実習では、新たな価値観や素敵な人との出会いがあり、自分を成長させてくれました。それと同時に、自分の思いを伝えて、相手の心を動かす喜びも知ることができました。これからは、子どもたちの成長を手助けしていきます。そして、これから何十人、何百人もの人に出会い、多様な価値観にふれて成長していくことが楽しみで仕方ありません。私にとってかけがえのない3週間でしたし、「最幸」の教育実習となりました。

合格体験記

文学部 日本語日本文化学科
山口 美咲

大阪府の教員採用試験に合格し、春から高等学校の国語教諭として教壇に立つことになりました。本稿では、合格に至るまでの4年間の大学生活について、また、実際に行った試験対策についてお話ししたいと思います。私の経験や思いが、少しでも皆さんの背中を後押しできれば幸いです。

私が教職を志したのは、2022年6月17日、教育実習の最終日です。大阪府の一次試験まで、残すところあと1週間というタイミングでの出来事でした。既に一般企業から内定を頂いた状態で実習に臨んでいましたが、次の日には全ての内定をお断りし、教職一本勝負に出ることに決めました。内定に甘えて、それをいざという時の逃げ道にしたいしなかったからです。「不安や迷いが一切なかったか」と聞かれると、すぐには頷けません。勿論、決断するまで何度も考えました。親やゼミの先生も、私の突然の方向転換に戸惑っている様子でした。しかし私は、「このまま挑戦せず終わることの方が怖い」と思いました。そこから、弱音を吐くのはやめて、私の本気の挑戦が始まったのです。

ここまで読んでいただくと、私をあたかも、チャレンジ精神溢れる、やる気に満ちた人間だと思われるかもしれませんが、自分で言うのは情けないですが、訂正します。本学に入学した頃の私は、「誰かに言われたからとりあえずやっておこう」というスタンスの、何の夢も持たない学生でした。とにかく、授業や資格課程を多く履修し、学費を無駄にしないぞという精神で、教職・司書・日本語教育課程の3つを並行履修することに決めました。教職課程を選んだのは、親の薦めです。「一般企業が駄目だった時の保険に…」程度の気持ちでした。司書課程は本が好きだから、日本語教育課程は、教職で活かせるかもしれないからという理由で履修しました。こうして、「先生？(進路選択として)一番ないわ～」という気持ちと共に、私の大学生活の幕が上がりました。

ここからは、「①4年間の私の主な経験」と「②試験対策」、また、私ならではの項目である「③一般企業就活と資格課程関連実習、教採の並行スケジュールの実践」について、学び(気づき)や思いも添えながら記していきたいと思います。

①4年間の私の主な経験

まず、前述したように、3つの資格課程を履修しました。教職課程は割愛しますが、日本語教育課程は採用試験において、私の大きな武器になったという実感があります。大阪府は試験における加点などは特にありません。しかし、国語教育と日本語教育という似て非なる2つの視点から児童生徒に関わったことは、教壇に立つ者として幅広いアプローチ方法を学ぶ手立てとなりました。来年度から高等学校での外国人生徒教育の枠組みとして、特別の教育課程が施行されることもあり、大阪府でも日本語教育に関する知識が求められているようです。やはり何事も、学びが無駄になることはないと感じているところです。

また、司書課程においては、本学で「図書館司書」の資格取得に取り組みました。加えて、学校現場で活かせる「司書教諭」の資格取得のため、現在、他大学の通信教育部に在籍しています。ICT化が進む中、資料活用や検索アプローチ方法等についての知識を更新することは重要です。もし司書課程を履修している方がいれば、こちらはともおすすめてです。

他には、大学祭実行委員会として活動したり、複数のアルバイトを経験したりしました。学内外問わず幅広い年齢層の方々と協働したエピソードや、アルバイトの継続力、高校までの部活動経験(朗読・アナウンス)を活かした大学生としての活躍などは、面接においてアピールできる私の強みとなりました。合格後、後輩の皆さんから「長所として何を挙げたらいいのかわからない」「ガクチカが無いのですがどうしたら…」といった質問を頂くことが多いですが、何かアクションさえ起こしていれば、なんだって強みに、話題になります。とにかくやってみる、この気持ちを大切にしてください。

②試験対策

次に、対策について簡単に記します。私の場合、冒頭にお伝えしたように、一次試験の一週間前から対策を始めたため、かなりイレギュラーです。ここでは、項目ごとに対策方法をお伝えします。詳細な内容は、受験報告書(教職支援課にあります)を見ていただければと思います。

1. Teacher's Cafe

私は4回生からの参加でしたが、今少しでも教職を進路として考えているのなら、早めの参加をおすすめします。共に頑張る仲間と交流出来たり、先生方お手製の対策資料をいただけたりと、プラスの要素がたくさん詰まっていました。

2. 情報収集

一般企業の就活同様、採用試験も情報戦です。採用試験は、各自治体によって、頻出範囲や試験の流れが異なります。私の場合、全く情報収集をしていなかったため、一次に向けて対策をしようにも、出題範囲がわからず途方に暮れた覚えがあります。そうした時に、共に頑張る仲間や教職支援課の存在が本当に有難かったです。一人で戦おうとせず、周囲の人と積極的に助け合おうとする姿勢を大切にしてください。

3. 過去問・参考書・問題集(SPI・現代文、古典、漢文)

一次は限られた時間だったので、とにかく過去問を解くことに注力しました。3回生の冬に受けた模試に向けて対策していた時の参考書(TwinBooks 完成シリーズ・時事通信社)も役に立ちました。この参考書での対策でA判定が出たので、かなり効力を有するものだと思います。加えて、SPIの問題集に1~2冊(少しレベル違いのもの)取り組んでおけば、一次は突破できそうです。二次三次については、実践面の対策が多かったので、次の4に示します。

4. 模擬面接・模擬授業

大阪府では、二次と三次に面接、三次に模擬授業があります。履歴書と面接個票の作成、模擬授業の準備は時間が掛かるので、早め早めの対策を心掛けると良いです。自己分析は専用のノートを用意して、とにかく書き溜めていくことが大切です。友達や先生からのコメントも一緒に書き込むことで、色々な視点から自分を見つめることが出来ます。また、キャリアセンターも積極的に利用することをおすすめします。模擬授業については、教材選び・指導案・板書計画が必要です。与えられたテーマはすぐに確認し、少し

でも早く準備すること、そして、1回でも多く練習を重ねることが重要です。話し方と目線の癖を直すこと・生徒との掛け合いを取り入れること・ひとつひとつの段階に目的意識がある授業構成か考えること、基本この3つを忘れなければ絶対良い授業になります。頑張ってください。

③一般企業就活と資格課程関連実習、教採の並行スケジュールの実践

一般企業への就職を考えていた私は、3回生の夏から徐々にインターンに参加するようになりました。冬には面接と日本語教育実習の時期が重なり、かなりハードスケジュールでした。4回生になり、就職活動を続けながら、気付けば国語科教育実習を迎えていたというところでした。自己分析や履歴書作成、実習準備など、多くのタスクがある中で、1日1日をどう過ごすか、しっかりとToDoを立てて行動していたのが良かったと個人的には感じています。実習の時期にもよりますが、ほとんどの人が実習前後に試験に臨むことになると思います。対策とまではいかななくても、2・3回生の余裕があるうちに、パラパラと教職教養の参考書を見てみたり、国語の文章題を解いてみたりしておく、どこかで役立つかもしれません。

以上が、合格通知を頂くまでに至った経緯です。就職活動で色々な企業を見て、面接の度に企業に合わせて何となく自己PRをしていましたが、「ここって、本当に私の強みが発揮できる場所なのかな」と、しっくりこない感じでした。ところが、実習で生徒と出会い、初日から最終日まで関わる中で、良い方向に転じた生徒の姿を見て、「ここしかない」と思いました。私の強みは、「人を信じ、1人1人を大切に想うところ」です。この強みを活かして、「生徒が夢や目標に向かって安心して取り組めるよう、一番に見守り、支える存在になりたい」と考えています。4年前、何の夢も目標も持っていなかった私が、今はこうして、夢や目標を追う生徒の背中を押す存在を目指しています。皆さんも、残りの大学生活、自分の気持ちを大切に、後悔のない選択ができるよう、頑張ってください！

3-3. 各種体験記（医療栄養学科・栄養教諭課程）

栄養教育実習を終えて

医療栄養学部 医療栄養学科
小林 瑠菜

楽しさと緊張が入り交じっていた教育実習。5日間という短い期間でしたが、小学校4年生を中心に子どもたちと接し、研究授業をさせていただき、教師という仕事に触れ、とても濃い5日間となりました。

普段学級に関わるのが少ない栄養教諭ですが、今回の実習では、栄養教諭としての仕事だけでなく、学級担任も経験しました。また、教師としてどのように児童と関わることがかをすぐそばで拝見させて頂くことで、より児童との接し方について学ぶことができました。

学校生活では、実習日程が5日間という短い期間だったので、少しでも児童と交流を深められるよう積極的なコミュニケーションを図るよう努力し、授業風景をよく観察、学習発表会の練習の参加、日常会話など積極的に行い、児童の名前や性格、特徴をできるだけ早く覚えられるよう心がけました。その甲斐があり、最終日までには全員と話すことができ、名前も覚えることができました。児童たちも名前を呼ぶと少し嬉しそうに返してくれる姿がとても嬉しかったです。

また、休み時間に声をかけてくれる児童が多く、一人ひとりの声に反応することは難しく感じましたが、視野を広げて会話をする時はしっかりと相手の顔を見て話すことを意識しました。些細な会話かもしれませんが、このようなことが、教師と児童の信頼関係を築いていくために重要であることを学校という現場で経験し、改めて実感することが出来ました。

研究授業では、朝ごはん欠食率の課題の観点から、朝ごはんの食べる意味はあるのかを題材に興味を引きつけるようなイラスト教材を使用した内容にしました。教材を制作するにあたって、どのぐらいの大きさが後ろの席まで見やすいのか、字やイラストの大きさを考え、目で見て理解しやすいような配色とデザインにこだわり、少しでも印象に残る授業になるよう工夫しました。授業の進め方に戸惑っている時に先生方から熱心に指導して下さい、授業の組み立て方から児童の特徴など考慮することができた授業内容にすることができました。また、研究授業発表前日に練習授業を2時間も設けていただいたおかげで、声の張り方や、授業の進め方を体で馴染ませることができ、改善点を微調節することができました。研究授業発表では「隣の教室から昨日楽しい声が聞こえてきたから絶対楽しい授業や！」と声を掛けてくれる児童がいてとても嬉しかったです。期待に答えなければと緊張が高まりました。また、沢山の先生方に見てもらうためさらに緊張もしましたが、児童達の目が輝いており、一生懸命聞いてくれている姿を見て私自身とても楽しく授業をすることができました。実際に授業をしていて難しいと感じたことは、言葉の伝え方です。児童達の発想を予測できず、丸をつけてもらうところが別の場所になる子がありました。的確に伝えるためにはもっと言葉を噛み砕き、視覚的に分かるように工夫することが必要であることを学びました。そのためにも様々な知識を身につけるとともに児童の立場になって考えること、やはり現場経験の数を重ねるこ

とが重要だと感じました。

今回の実習を通して、栄養教諭という職業は給食の衛生管理から食育、嗜好調査など責任重大かつ仕事量が多いですが、その分児童や先生方、保護者からの期待や信頼も厚く、とてもやりがいのある仕事だと実感しました。短い期間でしたが、先生方の熱心なご指導と児童たちの元気な笑顔のおかげでとても充実した実習となりました。大学ではできない貴重な体験をし、たくさん学ぶことができました。この経験を活かし、日々成長していきたいと思います。

栄養教育実習 感想文

医療栄養学部 医療栄養学科
西嶋 穂乃実

5日間、母校である西宮市立上ヶ原中学校にお世話になりました。本校は、全校生徒700人で全国的にも珍しく6つの小学校から構成される校区を持つ学校です。私は、1年3組に配属されました。入学して間もない5月、前述の通り多くの小学校から構成されたクラスの雰囲気は、まだ緊張した表情や行動をしている生徒の様子がかげえました。今回の実習では、「いかに現状に合わせた指導ができるか」ということが重要であると感じました。中学校の現状として、教科のカリキュラムが多く、栄養教育のような特別活動の時間が取れないという課題がありました。そのため、教育実習においても50分の授業実習ではなく給食喫食中の10分間を使って実施する事となりました。したがって、「いかに短い時間で生徒の印象に残るような授業をするか」ということが重要になります。給食の時間中のため、チョークは使えません。また、新型コロナウイルス感染症対策のため黙食が徹底されており、質問しても発言による返答が得られません。実習生と生徒とのコミュニケーションが取れないことで生徒の理解度をはかることが難しく、授業計画の中で特に苦戦した部分でした。そこで、あらかじめ画用紙に「朝ごはんを食べよう」というテーマの内容を板書に書き、理想的な食事内容の一例を絵でも示しました。話をしながら「〇〇の人は手を挙げてください」などと声かけしたりして、制限のなかでも工夫をしました。このように栄養教育の授業時間が少ないということは、栄養教諭が直接生徒と関わる時間が少ないということの意味します。担当していただいた栄養教諭からは「常に栄養教諭として関われる場面がないか探すことが大切である」と教えていただきました。実習期間中には、給食室前や給食配膳時の教室の見回り、お昼の放送、給食だよりによって生徒と関わる様子を見ることができました。また、今回の実習で、全ての教職員との連携が重要だということを実感しました。学校では様々な場面で栄養教育をおこなうチャンスがあります。栄養教諭だけではなく、学校全体で取り組むことによってより良い教育環境が実現すると感じました。栄養教育に限らず、どの場面においても学校やクラス、生徒に合わせた指導や声かけが行われていました。実習のなかでも、生徒は一人ひとり違うため、生徒を学力だけではなく人間的に成長させることが教師としての役割であると教えていただきました。この実習で学んだことを忘れずに良い教員になれるよう努力していきたいと思いました。5日間という短い期間の実習でしたが、教職員の方々や生徒たちから大学では学ぶことのできない貴重な勉強をさせていただきました。

3-4. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

私の目指す養護教諭像：4年間の教職課程を振り返って

看護リハビリテーション学部 看護学科
鰐淵 咲

I. はじめに

私は、1年次の目指す教師像として、“様々な悩みを持った児童生徒1人1人と向き合い、児童生徒自身で成長することを手助けできる教師。児童生徒の小さな変化にもすぐに気づき、迅速に適切な判断ができる教師。”ということ挙げていた。教職科目において教師としてのあり方、また専門科目などで養護教諭の役割や機能について学習を重ねてきたことで、ただ怪我や病気の手当てをしたり、気持ちに寄り添うことが養護教諭の役割なのではなく、学校保健活動や保健室経営などの養護教諭の基盤の活動が児童・生徒の心身の健康や安全・安心を守っていくために重要であるのだと学んだ。本レポートでは、これらの4年間の学習の学びと、その学びから考える今の私が目指す養護教諭像と、学校で求められる力についての自己の課題について考え、述べていくこととする。

II. 養護教諭に求められる力とは

(1) 適切なアセスメント力および実践能力

健康相談活動論においては、頭痛や腹痛など学校現場でよく訴えのある症状に対するアセスメントと対応方法について学修した。その内容を踏まえて、「養護実習」では、吐き気を訴える生徒が保健室に来室した際に、私は食事内容の問診や体温の確認などを行った。しかし、実際には、その時の生徒の吐き気の原因について分からず、対応に困ったことがあった。そこで、養護教諭の方はその生徒に対し「さっきの授業は何?」、「(理科と回答したことに対して)何か薬品とか使った?」と確認をすると、「使用した」と実際に生徒が答えていた。このように養護教諭は的確に症状のアセスメントを行っていた。このことから、生徒自身も原因が分からないこともあるため、養護教諭は多角的な視点をもって問診・アセスメントを行い対応していくことの重要性を改めて実感することができた。

また、「養護実習」では、教育実習校が高等学校であったということもあり、部活動におけるプレッシャーや友人関係の問題を抱えており、精神的な主訴で保健室に来室する生徒の多さを実感した。これらの経験から、3年次の「教育相談」の授業で学修したように、養護教諭のカウンセリングマインドや児童生徒のサインに気づく力の重要性について理解を深めることができた。

以上のことから、養護教諭は確かな知識と技術をもちながらも、児童生徒の心と身の両方の健康を守っていく力が求められていると考える。

(2) 学校の教職員・学校の関係機関との連携を図る力

「養護実習」では、養護教諭の方は保健室に来室した生徒に関する情報を担任と共有、そして、健康診断などの学校保健行事に関しては、教職員の協力を得ながら、養護教諭が先頭に立って実施されている様子を観察した。つまり、養護教諭は教職員・スクール

カウンセラー・保護者との連携を密に行うことで、児童生徒が安全に安心して、そして心身ともに健康的に学校生活を送れるように、多方面から支援していく上での、コーディネーター的役割を担っているのだと学んだ。

また、「養護実習Ⅰ（事前指導）」でゲストスピーカーの学校薬剤師の講義演習から、学校環境衛生を守っていくためには、学校薬剤師から助言・協力を得て、学校環境衛生の改善に向けて、計画に反映し実施していく養護教諭の役割を理解した。つまり、学校内の連携だけでなく、学校薬剤師や学校医との連携、地域の医療機関との連携が重要であり、養護教諭はその連携体制の構築に関して重要な役割を担っているのだと確認できた。

(3) 個人だけでなく集団・地域に目を向ける能力

「養護実習」では、生徒の健康診断の結果に基づいて「お知らせ」の作成を行った。その際にそのクラス別の健康課題を見出すことができた。このように、養護教諭は健康診断でただ個人の健康課題の早期発見・早期治療に繋げるのではなく、事後措置を通してクラス単位や学校全体の健康課題を見つけ保健指導に繋げ、養護教諭が先頭に立って、他の教職員に働きかけながら、学校全体で健康課題の解決に向けて取り組んでいくことが大切であると考えられる。また、教職実践演習において、グループで地域の特性に応じた健康課題について考えることを通して、地域の環境や資源、そして新型コロナウイルス感染症など社会情勢が学校保健と密に関わっているのだと学んだ。

これらのことから、養護教諭は保健室に来室した生徒だけでなく、学内巡視などを通して、常にアンテナを高く上げて、個別支援が必要な児童生徒の発見や、学校全体・地域にも目を向けていく力が求められていると考える。

Ⅲ. おわりに

4年間の学びを通して、“児童生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送ることができ、そしてその後の人生においても自身の健康を大切できる力を身に付けることを支援する教師”という教師像へと変化した。この教師像に近づくためには、児童生徒の自立・成長を促す力が自己の課題として挙げられる。私の目指す養護教諭像は、「傾聴」することは重要であるが、児童生徒の表出した訴えだけではなく、児童生徒の未来を考えたい。そのために本人の自立や成長のために必要なことであるのならば、本人の意思と反していたとしても、本人と話し合いながら、背中を押していくことができるような関わりを目指したい。

私が目指す養護教諭像は、児童生徒だけでなく教員も含む1人ひとりをしっかりと理解することが出来る教諭である。1人ひとりを理解することが出来る教諭とは、養護教諭が学校で求められる力の1つではないかと思う。

養護教諭と他の教員との違いの1つに全校生徒との関わりを持つという特徴がある。ゆえに、児童生徒1人ひとりの情報や状況をしっかりと把握しておかなければならない。そのためには、担任や管理職、保護者との連携をよくとっておく必要があると4年間で学修した。

担任や管理職、保護者との連携に関しては、養護専門科目と「教職実践演習」で事例を用いた授業を通して他の学生と意見を交換しながら教師間の連携がいかに大切であるかを学ぶことが出来た。また、4年次の「養護実習」でも、実際の児童対応で保護者や管理職との連携をしている実際の場面から、「チーム学校」を作っていく上で情報共有の大切さを学ぶことが出来た。

大学2年次は、新型コロナウイルスの影響からオンライン上での授業が多くなり、対面でのやり取りができない状況下であった。オンライン上でのやり取りに不慣れなことから、意見を言う場面でも正しい意見を言えているのか、不安になり自分から積極的に自分の意見を言い出すことが出来なかった。4年生になってからの対面の授業でも、他の学生がいる前で意見をいう場面では、課題を感じるが多かった。しかし、グループワークなどの少人数では看護学科のチーム医療の授業や実習のカンファレンスなどを通して、他の学生の意見を聞きながらも自分の意見を言うことが出来るようになっていったと感じる。しかし、学校現場では多くの教師がいる中で保健室や児童生徒の実情を伝えなければならない。現在、人の前で自分の意見を伝えることが苦手な私にとっては今後の課題となってくるのだろうと考えた。この課題を克服するためにも、児童生徒一人ひとりをみてその児童生徒の現状を他の教師に正しく伝えることが出来るよう日々児童生徒との信頼関係の構築、重要な関係者との連携をとっていきたいと考える。

また、児童生徒と多くの時間関わっている担任だからこそ抱えている悩みや思いが多いことを理解した。「チーム学校」を創っていくためには教員が孤立するような状況をつくらないようにしなければならない。そのためには、教員と児童生徒との関係を把握することや教員との信頼関係を構築していく必要がある。「養護実習」で、担任が養護教諭に相談に来るといった場面を経験した。養護教諭だからこそ話することが出来るという事もあるのではないか。そのためにも、私は、教員にも目を向けることが出来る養護教諭になるために、観察力を身につけるために視野を広げることが課題である。

大学の「特別支援教育」や「養護実習」の講義演習では、「特別支援教育」という枠組みを超えて支援が必要な児童生徒や地域性や家庭環境で不登校傾向になる児童生徒が多いと理解できた。児童生徒一人ひとりがどのような性格なのか、どのような生活背景なのかなどを把握することは必要である。支援が必要である児童生徒が多くなっており、児童生徒のなかには、教室に居づらくなり保健室に来室する。しかし、児童生徒の実情や地域性、家庭環境を把握していないと対応することが難しい。これからは、養護教諭

として勤務する学校の地域性を知ることはもちろん、常に新しい情報を取得するような心がけ、学ぶ姿勢をさらに身につけたい。「養護教諭の資質・能力とは、養護教諭が職務を遂行する上で必要な専門的知識や技術や技量、考え方である」（北口和美, 2020, p, 82)と述べられているように、養護教諭は常に新しい専門的知識の勉強や技術の取得、多方面からの考え方を持っていく必要がある。養護教諭の道を目指すわたしにとっても非常に重要な課題の1つである。

養護教諭は、常に学校の多重課題に追われている状況にある。その中でも、優先順位を考えること、教員間での連携を常にとるようにすることがますます大切になる。この4年間の教育課程と看護学の2つの専門課程を履修したことで多職種の視野をもっていきたい。

引用文献

北口和美, 出井梨枝(2020), 養護学概説－養護教諭の本質を捉えた実践の創造－(pp. 82)

4年間の養護教諭過程での学びを振り返り：目指す養護教諭像

看護リハビリテーション学部 看護学科

齋藤 陽奈

1. はじめに

4年間の養護教諭過程での学びを振り返り、目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己の課題を考え、今後身に付けていきたいことについて述べていく。

2. 目指す養護教諭像と自己の課題

私の目指す養護教諭像は、児童生徒が生涯健康で過ごせるように支援できる養護教諭である。

児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るためには、規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、日常的に起こる健康課題やストレスに適切に対処できる力など、自らの心身の健康の保持増進を図るために必要な知識・技能を身に付けることが必要である¹。そのため、養護教諭は来室した児童生徒に応急処置を行うだけでなく、個別の保健指導に繋げて健康への関心や意識を高めて健康管理能力を高められるように支援していくことが重要であると考えます。

小学校での養護実習の際に、外で擦過傷を負って来室した児童に対して「次からはまずは洗ってから保健室に来てください」と児童ができることは児童自身にさせるよう声掛けがなされていた。また、休み明けの月曜日には倦怠感や頭痛などの内科的な理由で来室する児童が多くいた。これは、休みの間にも活発に活動して疲労が蓄積していたり、夜更かしをしていたりと睡眠時間が十分に確保できていないことが原因であった。児童と共に就寝時間や起床時間、朝食摂取の有無について確認し、休みであっても普段と変わらず早寝早起きをすることや朝食の重要性について、養護教諭が個別の保健指導をされていた。私は児童の症状や訴えについて傾聴することはできたが、保健指導に繋げることが出来なかった。

児童生徒の健康の保持増進に繋げるために、児童生徒が自ら健康な生活に取り組めるよう自己の生活について振り返らせ、共に解決策や今後どう過ごしていくべきかを考えていくことが自己の課題である。

養護実習を通して、小学校低学年の児童は自分の症状や痛みを言語化することが難しいことを学んだ。そのため、保健室に来室した際に怪我や体調の変化に気づいて応急処置を行うために、日頃から担任と児童の様子について情報共有を行い、一人一人の児童の普段の様子を的確に把握しておく必要がある。教職実践学習の養護実習の発表会を通して、フェイススケールなどを用いて痛みの度合いを数値化することで、言語化することが難しい低学年の児童の状態を的確に把握されていることを学んだ。情報共有やフェイススケールを十分に活用し、的確に状態をアセスメントできる力を身に付けていきたい。また、保健室に同時に複数の児童が来室し、一人一人に時間をかけて対応することが難しいことがある。その際には、緊急度に応じて対応したり、一人一人児童の特質や性格を理解したりすることで、どのように対応したら公平感や満足感を児童が持つことができるかを考えて対応することが大切である。児童生徒からすると、それぞれが苦しい状況であるため、ただ緊急度に応じて対応するだけでなく、一人一人に説明を行い、納得

して保健室で処置を受けられるように対応できるようになりたい。緊急度や受診・救急の要否の判断を行うために、解剖生理学や疾患についての知識を身に付け、フィジカルアセスメントなどの技術を用いて確実に対応できるようにしていきたい。医療機関への移送が必要であると判断した場合には、担任、生徒指導、管理職と連携することはもちろん、保護者に怪我や病気が発生したときの状況、養護教諭として下した判断とその根拠、対応内容などを的確に伝え、保護者との信頼関係を構築していくことが重要である。大学の教職課程の授業の最後に、養護実習を終えた後、看護学科の「教職実践演習」の授業の一環として、看護学科で教職課程を履修した20人が養護実習の成果発表を行った。他の人の学びから私自身の学びも深めることができた。

例えば、他の人の発表のなかで、健康診断の耳鼻科検診がトラウマとなっている児童の関わりから学んだ内容を伺った。その児童に対し、他の児童が見本を見せてあげたり声をかけたりすることで、その児童は検診を受けることができ、児童同士で助け支え合い、乗り越えることができたと発表していた。私の実習校でも、耳鼻科検診で並んでいる際に「痛くないですか」や「怖くないですか」と声をかけてきた2年児童がいた。私は、「痛くないし、すぐに終わるから大丈夫だよ」と声をかけた。しかし、発表された方のように、実習生や大人が介入して児童の恐怖や不安を軽減させるのではなく、児童生徒同士の関りの中でお互いを高め合えるように支援していくことも大切であると考えた。そのため、健康の増進に向けた保健指導においても養護教諭側から一方的に指導するだけでなく、児童生徒同士が高め合えるような支援を行える養護教諭になりたい。

3. おわりに

これまで述べたことを課題として、学校現場で働く際には4年間の学びを生かし、児童生徒が生涯健康で過ごせるように支援できる養護教諭を目指して、努力していきたい。

引用文献

文部科学省 (2017) 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～, 1.

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2017/05/01/1384974_1.pdf

¹ 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2017/05/01/1384974_1.pdf

目指す養護教諭像と学校で求められる力についての自己課題を考える～4年間の教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習の学修成果を振り返って、児童生徒の安全・安心を守るために今後、身につけておきたいこと～

看護リハビリテーション学部 看護学科
津山 果凛

養護教諭の職務内容として学校教育基本法第37条に「養護教諭は、児童の養護をつかさどる」と明記されている。私は4年間の教職科目や養護の専門的な科目を通して、この児童の養護をつかさどるとは何か、一体どのように養護をつかさどることができるのかを学んだと考える。その学びの過程においては、ただ単に学校における養護教諭の職務や責任を学んだのではなく、学校現場の現状と課題や、児童生徒が抱える現代的健康課題などを踏まえて養護教諭の専門性を培った。

現代の学校現場の現状や課題としては、COVID-19の感染予防対策、新しい学習スタイルやSNSなどに伴ういじめなどの生徒指導上の問題、特別支援教育が必要な児童の増加、保護者からの相談・苦情などへの対応、不登校の児童生徒の増加など、多岐にわたる。また、児童生徒が抱える現代的健康課題としては、アレルギー疾患の増加、肥満あるいは痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、性に関する問題、子どものインターネット・スマートフォンのトラブルなど、様々ある。このような学校現場や子どもの現状は、私自身も実習中に身をもって経験し、実際に現場の養護教諭の方々と共にその予防から対応まで行った。これらを踏まえ、私が目指す養護教諭像は、日々の子どもとの関わりの中で子どもの僅かなSOSをしっかりとキャッチし、子どもの心身の健康と安全、さらに権利を守るために、健康問題解決に向けて子どもと一緒に考え、支える養護教諭である。

このように考えた理由は2つある。1つ目は、子どもが保健室に怪我や心身の不調で来室した際の背景要因をしっかりと知ることが非常に重要だと考えたからである。実際、養護実習中にケガを主訴に来室した児童がいた。その児童は翌日にも同じ主訴で来室した。養護教諭はケガの状態や児童の様子から、速やかに管理職と情報共有を行うとともに、毎日必ずその児童に声を掛けなどをしていった。養護教諭と管理職は多様な生活背景も視野に入れて、学校内外の専門機関とも連携を図る可能性もあることを実感した。子どもの怪我や心身の不調、あるいは子どもの発言や様子の背景要因を知り、その状況に置かれる子どもの思いをも理解することが、子どものSOSをキャッチし、子どもの心身の健康を守ることに繋がるからである。

2つ目は養護教諭が主体となって子どもの心身の健康課題を解決してしまうと、子どもが今後同じ健康課題に直面した時に、子どもが自分で解決できないと考えたからである。養護実習中に、児童が、「学校に来たくない。教室に上がりたくない。」と泣きながら来室したことがあった。後日、男児の母親から養護教諭に具体的な相談があった。養護教諭は、母親の気持ちを丁寧に傾聴し、学校の中で、心を落ち着ける場所として保健室の場を提案される。後日、そのことを児童と母親に伝え、すぐく安心した様子で児童はその日から、「自分で」養護教諭に気持ちを話すことができるようになっていく変化が観察された。このように、大人だけで問題解決をするのではなく、学校という場で子どもが自分で問題解決に向けて行動化・実践化できるように支えていくことが大切だと

学ぶ貴重な機会を得た。

以上で述べたことは、私が目指す養護教諭とその根拠であるが、このようなことは学校現場において、養護教諭の力や資質として求められるのではないかと考える。なぜならば、子どもとの関わりにおいて、労いや傾聴の姿勢で信頼関係を築き、他の教職員と協働していくこと、子どもの特性を理解し、目指す子ども像に向けて自尊感情や自己効力感を育むことは、養護教諭だからこそ、その専門性を最大限に発揮して行える教育活動だと考えるからである。

一方で私自身の自己課題としては、学校現場で養護教諭は現在1人配置であり、それが今の私に1人で実現できるのか、ということが挙げられる。私の実習校は、養護教諭が複数配置されていた。一人だけの養護教諭の配置であると、保健室運営の負担や責任が非常に大きく感じる。養護教諭として、他の誰かに協力を要請することができるのかという不安があげられる。大学の授業や実習では、チーム学校として、密に報告・連絡・相談をしながら連携していくことことの重要性を学んだが、実際に現場で自分にそれができるのかは非常に不安である。責任感の強さゆえに、他人に頼れないという自己の傾向や課題をどのように解決していくのか、この先もしっかりと向き合い、考えていきたいと思う。

合格体験記

看護学科 養護教諭

Y. O

私は、この春から養護教諭として働かせて頂くことになりました。私が養護教諭を志し入学し、教員採用試験に合格するまでについてお伝えさせていただこうと思います。私は、学校の保健室を良く利用する子どもでした。その際の保健室、そして養護教諭の先生との関りが心に残っていて、養護教諭を志すようになりました。また、家族の影響もあり看護師という仕事にも興味を持っていたこともあり、大学では看護師と養護教諭の勉強をしようと決めました。しかし、入学後の生活は、私が想像していた以上に看護師のカリキュラムがハードで、教員採用試験に受かることはできるのかと不安になったことを覚えています。また、それと同時に養護教諭の実習は4年生であるため、実習に行ってから心を決めて教員採用試験合格に向けて対策すると現役合格には間に合わないと思いました。このこともあり、私は1年生の時から様々な自治体の試験内容等について調べるといったことを始めていました。また、2年生のときには神戸市学生スクールサポーターとして小学校で活動することにしました。実際に小学校で“先生”と呼ばれる立場で子ども達と関わることで、私は養護教諭になりたいなと強く思うようになりました。

しかし、養護教諭の教員採用試験は倍率が10倍を超えることもあることや、講師として臨時採用で働かれている先生方と同じ試験を受けるということから、合格することは容易なことではありません。私自身、教員採用試験の筆記試験対策を本格的に始めたのは3年生後期の領域実習が終了してからです。重点的に学習すると決めた参考書は表紙が破れてしまうほど繰り返し学習し、試験本番では参考書のどの部分を聞かれても概ね答えることができるという状態でした。受験した自治体の過去問については、18年分を2回、5年分についてはさらにもう1回学習しました。また、上記の学習がひと段落したところで、実力試しも含め、全国の自治体の過去問を学習しました。模試も定期的に受験し、自分自身の苦手分野を把握すること、目標を決めることに役立てました。学習していく中で特に意識していたことは基礎に戻ることです。教員採用試験の問題では、マニュアルや学習指導要領等からの出題もあり、参考書に乗っていることだけを理解しておけば解けるというものではないなと学習していく中で感じていました。そのため、出題されたマニュアルや学習指導要領については目を通すようにしていました。この学習方法は、筆記試験だけでなく面接試験対策にも生きていたと感じています。面接対策では、友人とオンラインサービスも活用しながら面接練習を重ねました。実際に模擬面接のように練習することや、伝えたい内容が伝わりやすい表現となっているかどうかを確認してもらったりしていました。面接対策で特に意識していたことは、自分の伝えたいことの軸を持つということです。自分自身の中に軸があれば、予想外な面接内容であっても落ち着いて自分の考えを伝えることができると感じています。友人からの支援もあり、教員採用試験に現役合格することができたと感じています。養護教諭を真剣にこころざす仲間がいたことが私自身にとってはとても大きな心の支えでした。春からは、大学生活での学びをいかしながら、養護教諭として子どもたちと関わっていきたいと思います。

養護実習を終えて

実習期間：2022年5月 看護学科4年

5119056番 進藤 歩未

目次

- ①実習校の概要
- ②実践内容
- ③学校における感染予防対策とその工夫から学んだこと
- ④養護実習で自分自身の学びとして
- ⑤養護教諭を目指す人に伝えたいこと

①実習校の概要

- ◆ 学校名：加古川市立内小学校
- ◆ 児童生徒数：422名（14学級）
- ◆ 教育目標：すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成
- ◆ 学校環境：兵庫県知事からグリーンスクール表彰を受賞した大きな中庭があり、様々な植物や生物が存在している。
- ◆ Parent-Teacher-Association(保護者と教職員による同じ目的を持つ集まり)の名前の通り、保護者と学校が協力して、子どもたちの健全な育成のために活動している

②実践内容

内科検診

- ◆ 事前準備
 - ・ 内科検診のお知らせを児童生徒へ配布する
→ 日時、場所、服装、検査内容、検査の受け方、注意すること、保護者への連絡
 - ・ 実施計画を教職員へ配布する
→ 日時、検査順、場所、服装、運営について、会場図
 - ・ 会場の設置
 - ・ 必要物品の準備
→ 机、椅子、消毒、消毒綿、ピンセット、筆記用具、トレイ、ついたて（記入内容が見えないようにするため）、記入用紙、ゴミ箱



◆ 実施

・ 児童生徒の誘導

- 上半身裸のため、プライバシーの保護に十分注意
- 検査の待ち時間に児童が静かにするよう声掛け
- 床に足の形をした印をつけ、そこに立つよう指示



・ 検査結果の記録

- プライバシー保護のため口頭で聞くのではなく、ハンコを用いて
- 医師から結果を伝えてもらう
- 次の児童生徒を呼ぶ前に記録用紙の不備の有無を確認する



※高学年の女子児童に事前に説明を行う
(検診に支障がなく背中が隠れない下着のみ着用可)

◆ 事後措置

- ・ 記録用紙の枚数、結果の確認
- ・ 病院への受診が必要な児童生徒へ配布する書類の作成
- ・ 欠席者に対して、次回の検診日を知らせる



掲示物の作成

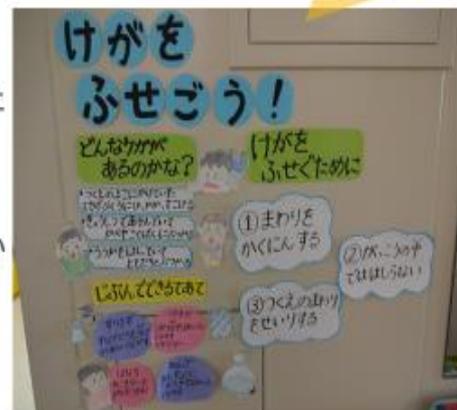
◆ このテーマを選んだ理由

- ・ 怪我による保健室来室の数が多く（1日10人前後）
- ・ ほとんどの児童生徒が怪我をした状態のまま保健室に来室している
- ・ 教室や運動場での注意不足による怪我がほとんどである

「先生、ちゃんと水で砂洗って落としてきた。」と報告してくれる児童がたくさんいました！！

◆ 工夫点

- ・ 児童生徒の目に入りやすいよう色合いを明るくカラフルにした
- ・ イラストを入れ、分かりやすく想像しやすいようにした
- ・ 低学年でも理解できるよう漢字をほとんど使用していない



保健室での感染予防対策

1. 保健室のすぐ外にあるベルを鳴らし、問診を受ける
2. 体調不良の場合→保健室の中に入り、体温を測定（問診の続き）

※ただし、既に発熱のある児童生徒が保健室休養している場合は保健室の外で実施
怪我の場合→保健室の外にある怪我時スペースで処置

③学校における感染 予防対策とその工夫 から学んだこと



学校全体での感染予防対策

- ・給食は全員前を向いて黙食する（準備の時から静かに待つ）
- ・毎日体温表を書いてきてもらい、朝の時間に集める
→ 忘れた児童には教室にある体温計で測定してもらう
- ・クラスに2つずつ消毒液を設置
- ・マスクを外した状態で会話している児童にはその都度注意



学んだこと

- ・児童生徒自ら感染予防行動がとれるよう教師が学校生活の様々な場面で助言している
→ 児童生徒間でも注意し合うことが出来ている
- ・教師自身が感染予防行動をしっかりと行うことで児童生徒の見本となるよう努めている
→ 自分自身を感染から守ることにもつながる
児童生徒にとってもより分かりやすい

④養護実習で自分自身の学びとして

- ・ 1日の保健室来室の状況については予想することが困難であるため、行うべき物事に対して優先順位をつけて行うことが必要であること
- ・ 教職員間での情報共有または連携が大切であるということ
一保健室での様子と教室での様子も少しずつ異なる場合がある
- ・ 同じ学年の児童生徒でも一人一人個性があり、関わり方には工夫が必要であるということ
- ・ 保健室に来室した全ての児童生徒に対して、暖かく迎えることで保健室が児童生徒に安心を与えられる場所となるということ



⑤養護教諭を目指す人に伝えたいこと

教育実習では、様々な個性ある児童生徒と関わる機会があり、コミュニケーションの難しさや一人一人の児童生徒に対して短い時間の中でどのように関わるべきなのか悩むこともあると思います。

しかし、教育実習を終えてみると大きな達成感や看護の実習とはまた違ったたくさんの学び・経験を得ることができます！！



4. 教職支援課の概要

教職支援課は本学教職課程を履修し、教員免許の取得を目指す学生を支援するとともに、免許状更新講習の実施等を通じて、社会的な貢献も果たすべく活動を行っている。

○ 教職支援課の支援体制について

教務部長を筆頭として、課室には教員 5 名・事務職員 4 名のスタッフを配置しており、学生相談及び各種事務業務にあたっている。

<2022 年度 教職支援課スタッフ>

教務部長 佐伯 勇 (人間科学部文化社会学科 教授)
若菜 秀彦 (国際学部国際英語学科 教授)
藤田 昌央 (人間科学部総合子ども学科 教授)
高山 育子 (人間科学部総合子ども学科 助教)
中野 順子 (人間科学部総合子ども学科 助教)
他 事務職員 4 名

○ 教職支援課の利用について

原則として、利用は本学在学学生および卒業生のみとしており、月曜日から金曜日(祝祭日は除く)までの 9:00~17:30 の間、開室している。

※授業実施期間以外は 9:00~17:00 の開室としている。

窓口での相談については、事前予約制をとっており、相談希望者は予約の上、相談をすることができる。相談内容は、履修相談から実習関係、実習で使用するグッズの制作等、幅広く受け付けている。

また、課内には、全国自治体の教員・幼稚園・保育士採用試験問題集や参考書、絵本や手遊びに関する書籍・資料、雑誌等を設置しており、開室時間中は課のフリースペースでの閲覧が可能。書籍の貸出しは行っていないが、一部の書籍については本学図書館に同じ物を配架しているため、貸出し希望の場合は図書館配架の書籍を活用するように案内している。

[各教員が有する学位及び業績]

本学 Web サイト上にて公開している。

http://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

[授業の方法および内容並びに年間の授業計画]

本学 Web サイト上にてシラバスを公開している。

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cD01FF288-4275-979B-685B-512FFA513A5C_kE6DE0AC2-D354-0431-342F-931FFEBBE51

5. 教員の養成の状況についての情報

○教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

教員免許取得希望者に対し、神戸市教育委員会協力していただき、学内で神戸市学生スクールサポーター募集の説明会を開催しており、学生がスクールサポーターとして教育現場で活動できる環境を整えている。また、教育実習に先立って、学校でのボランティアに参加する仕組みも有している。さらに、一部授業科目で、教員経験者をゲストスピーカーとして招き、現場の声を聞くことができる内容とするなどしている。また、教職課程履修者が本学園併設の甲南女子中高等学校において授業見学をする機会も設けており、現場の教員との対話などを通じて、実践力を養う取り組みも行っている。

一方で、教職員が都道府県の実施する教員採用試験に係る説明会や、全国私立大学教職課程研究連絡協議会・阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会が実施する研究会やセミナー等に参加し、最新情報の収集や知識を深める努力を行っている。

編集・発行

甲南女子大学 教職支援課

2023年12月8日発行

〒658-0001

兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23

T E L : 078-413-3095 / F A X : 078-413-3901

MAIL : kyomen@konan-wu.ac.jp

U R L : <http://www.konan-wu.ac.jp>